

第2回
横浜介護・
福祉製品
研究会

慶応大学の技術シーズを活用しよう!!

“次世代介護・福祉製品”

IDEC
YOKOHAMA

の実現に向けて

昨年12月に第1回を開催した横浜介護・福祉製品研究会の第二弾。今回は慶應義塾大学の2名の研究者からご講演いただきます。

電動機を利用した移動機器システムの研究を進める村上教授からは、電動機を持つ重要な特性を福祉移動機器へ十二分に活用するための考え方について、次いで、満倉准教授からは、脳波を用いた興味度の抽出、疲労度検出、ストレス解析、眠気の検出などの技術の福祉システムへの応用例などについて紹介していただきます。

いずれのテーマも、ものづくり企業の力が不可欠です。また企業の皆様にとって新しいビジネスチャンスに繋がるのではないかと思います。是非、ご参加ください。

参加費

2,000円/1名

(当日会場にて
申し受けます)



日時

平成25年2月19日(火)
15時00分～17時30分

場所

(公財)横浜企業経営支援財団 大会議室
横浜市中区太田町2-23
横浜メディアビジネスセンター 7階

講演1 15:00～16:10

人と機械システムの相互協調制御

～次世代福祉機器への応用～

慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 博士(工学) 教授 村上俊之 氏



電動機を利用した移動機器システムの開発は今後も期待される重要分野となっております。本講演では、電動機を持つ重要な特性を福祉移動機器へ十二分に活用するための制御の考え方を、機器利用者との関わりを含めた実際の応用事例と通してご紹介します。具体的な応用機器として電動車椅子、電動歩行補助器等を取り上げます。

講演2 16:20～17:30

生体信号で見る、視る、診る

～脳波を用いた五感取得および客観評価、生体信号を医療現場へ～

慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 博士(工学) 准教授 満倉靖恵 氏



本講演では、脳波を用いた様々な応用例を紹介します。人の感性などの情報はアンケートに依る評価が通常ですが、アンケートは個人ごとの主軸が異なる、あるいは同じ個人でも日によってその評価の軸が異なるなどの問題があります。そこで、脳波を用いた主軸を構築し、これらを応用する方法について講演します。また、脳波以外の生体信号を用いた福祉システムへの応用例なども紹介します。

お問合せ先 (公財)横浜企業経営支援財団 経営支援部 技術支援課 TEL:045-225-3733

FAX:045-225-3738 <http://www.idec.or.jp> ★HPからのお申し込みも可能です★

第2回横浜介護・福祉製品研究会 参加申込書

氏名(ふりがな) _____ 所属・役職名 _____

企業名 _____

事業内容 _____

所在地〒 _____

TEL _____

FAX _____

E-Mail _____

※ご記入いただいた個人情報は、内部資料(参加者リスト)を作成する目的、財団からの各種案内を送付する目的のみに使用し、他の目的には一切使用しません